

◆子育て支援は三豊市民総力あげ 幼稚園と保育所を一体化した 「総合こども園」の創立に向けて



④総合こども園創立に向けての

研究と実践

▲「作る農業」から「創る農業へ」 付加価値を付けて農業で生活できるように (写真:イチゴハウス喫茶店の試作品)



詫間で地域内分権を開始

①地域エネルギーの

資源ごみ)

-の活用

里点プロジェクトは、

地域資源の有効利用②空き家、耕作放棄地等

③スポーツや文化の振興で

健康づくり

⑦自主自立した市民自らが創る ⑥企業誘致で新しい働く場の確保 ⑤三豊市型農業の推進

定の場とさせていただきます。 会への対応も年度主義的なもので はなく、毎議会が提案と議論と決 ド感を求めますので、

を目途に重点プロジェクトとし さらに、懸案の重要案件は2年間 6つの目標に基づいて展開します。 は三豊市新総合計画で示された 指すものであります。 位置づけ、結果を求めて参ります フトウェアを充実させ、閉鎖的 しい地域主義を目 広域的で開 戦略的施策

等一部変更させていただきます。 職員の採用方式も時期、採用方法 市役所に必要な人材確保として、 せていきたいと思います。さらに の参加を求め、それらを組み合わ あらゆる能力

てみたいと存じます。 る新しい労働の形態としても試み 済的リターンと社会的リタ り方として、 進んでいる超少子高齢化社会のあ ります。 置して市内全域に拡大を図って参 ます。さらに役所内に専門課を設 ル地域にして地域内分権を開始し また、今年度は詫間地区をモデ これは国よりも15年先に 高齢者の活力を開花させ 高齢者層に新しい 経

平成 24 年度 施政方針

市民力で創る 田園都市みとよ

田園都市みとよの創造

発事故という日本史上で忘れられ 昨年は、東日本大震災と福島原

被災者の皆さまに改めてお見舞

園都市みとよ」の基本コンセプト旗印は「田園都市みとよ」です。 「田 然と共生し、 は、豊かな自然環境に恵まれ、 第2ステージ、私たちが掲げる を有効利用して、 助け合い、共存す効利用して、人々が

、地域の持つ資源やエ自然環境に恵まれ、自

点目標とした「市としてやっていして、私たちが第1ステージで重 げで乗り越えましたので、 難なテーマは市民の皆さまのおか とつの市民意識の醸成」という困 ける財政力の基礎固め、三豊はひ 財政改革は継続して参ります。 そなえ、今後とも計画通り、簡素からの段階的な交付税一本算定に 展したと実感しています。 三豊市としての一体感も大きく進 い行政を目

識の芽生えを感じます。 うという今までにない強 いても市民が自ら考え行動しよ昨年の3月11日以来、三豊市に い自治意

3 2012年4月 広報 みょく

当初予算の概要

るよう、 その概要をご説明申し上げます。 計画に示す6つの基本目標ごとに、 必要性のある事業を重点的戦略的 るものであり、貴重な財源を市民 歳入歳出 272 億7千万円とす 平成24年度一般会計当初予算は、 に推進して参ります。 の皆さまにとって有効に活用でき このような方針の下に編成した 第4期実施計画に掲げた 以下新総合

産業が躍動が 雇用) するまち

保も図ります。 除対策も進め、 推進します。 を軸として有効な農業振興施策を 昨年設立した農業振興センター 三豊市としての農業振興 また、有害鳥獣の駆 担い手の育成・確

参ります。

経営規模の拡大を図ります。 地域整備計画を策定することによ て農業用施設の適切な維持管理を 利用集積率を高め、 り優良農地の確保を図り、 担い手農家の 農地の

> 果を受け継ぎ、引き続き、全庁をの放映や韓国陜川郡との交流の成特に、昨年度に実施した PR 映像の産業政策として取り組みます。 をお願い しては、 めます。トップセールスにつきま発信コンテンツの充実と成果を求 三豊市のもつ資源を明確にし、 さらなる拡大に努めながら、その とともに、メールマガジン会員の 挙げて知名度向上事業を推進する 力をあげて発信することだと思い 報告を求め、その効果を検証します 事業に組み替えし、 ますので、観光協会、国際交流協会 金補助事業を事業者にとって、 また、 昨年度までの中 内地元企業の一層の振興のた しやす 議員各位にも是非ご協力 観光の振興については、 し、三豊市を売り込んで いように市単独補助 あわせて結果 小企業振興基 総

徹底して成果を求めて参ります。 用の中の重要事業として位置づけ、 発信力を強化します。 と会やホ ては、三豊市の地域資源の有効利 このほか、 企業誘致については、 ムページの充実による 関東 関西ふるさ 定住につい

政治テーマととらえ、なお一層積いますので、私と議会議員全員の市民生活や福祉充実の源流だと思 ッたいと存じ なお一層積

極的に取り組んで参り

%にやさしいまたな自然と共生に まち

続いて、今後、市内での四国初のメガソーニ また、 市のさまざまな魅力の 都市みとよ」を発信して参ります。 具体的事例として強力に「田園 誘致を目指して取り組み、 地域エネルギー 用の方向はできましたので、 に見込まれる見学者を対象に三豊 市みとよの原点です。 「循環型環境都市」こそ田園都 まず、 メガソー 9月に稼動開始予定 て取り組み、これを市内で複数個所の ラー発電所設置後 の活用に取り組み ラー PR に努め ゴミの再利 - 発電所に 次に

能性を追求して参ります。 開発事業に取り組み、 、次期ごみ処理方式に沿い、地新ごみ処理施設の整備に関して 竹の資源化に関しては、 関係企業との共同研究、共同 引き続き可 学術機

> ては、 様書作成業務、 ストック総合活用計画に基づき事住宅政策については、市営住宅 策定します。 す。また、新火葬場の整備につ 元調整、民間との委託契約書、 選定地の確定と基本計画 周辺整備を行 17

をいま仕

業を計画的に進めて参ります。 水道事業については、 計画的な

新設を行います。 送配水施設等の耐震化や配水池の 老朽管の敷設替えを行うとともに、

安全・ 土・安心なまち、が助け合う 安心)

ります 系の整備を行います。計画の見直し、防災行政無線移動 識と協調して東南海・南海地震等 に備え、地域防災計画・津波避難 3 市民の皆さまの危機管理意11以来、急速に高まってお

他自治体との支援体制の強化等、援のあり方、情報伝達の仕組み、 援事業に取り組むとともに、業、ため池ハザードマップ堅 潮対策、民間住宅耐震対策支援事 さらに、老朽ため池の改修、 自主防災組織の強化、 畑むとともに、尚一ヶードマップ緊急支 公的支 高



▲「自助」「共助」「公助」の適切な役割分担が重要 自主防災組織を強化し、いざというときに備える



▲引き続き太陽光発電システム設置費を補助 地域エネルギーの活用を推進



▲昨年度、沿岸部には標高表示シールを設置 今年度は地域防災計画・津波避難計画を見直す



▲農業振興地域整備計画を策定し 優良農地の確保を図る



▲定住促進に向けて三豊市の魅力を発信 「みとよ暮らし手帳」ホームページを立ち上げる



▲コールセンターの職員採用説明会には約 200 人が殺到 雇用が確保できる企業誘致は今後の重点課題





▲学校再編説明会を開催 子どもたちのための学校作りを 地域ぐるみで考える



▲ 2級ホームヘルパーの資格取得を補助 誰もが笑顔で暮らせる地域社会に向けて



▲引き続き証言と資料を収集 「太平洋戦争と三豊」

のため、 健康こそ最高の福祉であり、 でいきえ せるまち

市立医療機関の整備計画等を策定討委員会」の答申を受けて、三豊 に数値目標を立てて取り組みます。 園都市みとよの重大要素です。 また、生涯現役時代、 また「三豊市地域医療あり方検 地域医療の充実に努めます。 各種健診の受診率の向上 生涯青春

に供給するためには、2級ホーム組みます。介護サービスを安定的 ヘルパー資格取得の推に供給するためには、 子育て支援については、 への就業支援を図ります。 資格取得の推進と市内事 マであり、 保護者、 特に

そ三豊市民総力をあげて取り組む お母さんを孤立させない やさし

スのとれた地域社会の実現に取り時代の自助・共助・公助のバラン Ļ

これこ

現実感をもって整備を進めます。 を急ぎ検討します。 また、発災時のすみやかな初動 ます。 に県内初の事業として、 医療費を引き続き助成するととも く温かい田園都市づくりを目指 また、

中学卒業までの子どもの

6

して 業と一般不妊治療助成事業に取り 組んで参ります。 せた子育て応援サービス券支給事 センター利用券支給事業を発展さ いるファミリー サポー 現在実施

健康・福祉 いあ きいと そ 育・文化) な心を育み

設備の整備、 建設計画を進めます。 教育施設の耐震化と改築、 新学校給食センター 空調

0)

生めていきまなから8校であります。引き続き対 なから8校であります。これは、 な、三豊市の小学校をゼロベース で作り直す、すべての小学校の再 で作り直す、すべての小学校の再

また「太平洋戦争と三豊」 集を徹底して行います。公共施マのもと詫間海軍航空隊の資料 のテ

げて具体案を作成すべく協議をス考えますので、引き続き全庁をあ 考えますので、引き続制度導入は、重要テー 制度導入は、重要テーマであると設の利用促進のための指定管理者

とも oが創るまち でに考え行動する 住民自治・行財政)

今後、 か、熱心かで、今後のコミュニテ地域づくりにどれだけ責任を持つ到来ということです。市民自身が の地域コミュニティづくりは、最活力を持たねばなりません。今後 う方向に向かって参ります。 少しますが、地域はみずみずしく すると思います。 のアイデアを思いきり発揮して行 も地域ニーズを知る市民自らがそ ィが決まってくるということです。 自身がつくるまちづくりの時代の 地域内分権社会であり、 でおります。 |権+学校再編||を主たるテーマ平成24年度においては「地域内 時勢は明らかに地方分権に進ん 国家予算も地方予算も減少 地方分権社会とは、 市職員の数も減 結局市民

若者たちも少なくなっております。 確かに昭和はいい時代でしたが、 ることは明白です。 の世代に耐え難い状況を先送りす いのですが、 静かにこのまま行ければとてもい もう有り余るお金もありませんし、 は、昭和の感覚ではとてもやっ少子高齢化が定着した今の三豊 いけない現実に直面しています。 昭和の感覚ではとてもや このまま行けば、 次

代の大きな変化を真剣にお考えい今こそ市民の皆さまに、この時 ただく時になったと考えます。

ることでもあります。 れはまた新たな可能性へ挑戦でき また新たな困難があります 三豊市の進む第2ステー 自由で、 多様な創造力 ・ジは、 そ

アをあげて力強く挑戦して参り とともにスイッチを入れかえ、 の充実を目指して、 のある、開かれた「田園都市みとよ」 と存じます。 健康で、 市民の皆さま ギ

ていただきます。 願い申し上げ、 さまのご理解とご支援を心からお議員各位、そして三豊市民の皆 所信の表明とさせ

分権+学校再編」を主たるテー

市民対話集会

7 2012年4月 広報 みょく 広報 みとよ 2012年4月